

JR東労組勝田車両センター分会情報への疑問

動労水戸

大震災と原発事故—大飯原発稼働への17万人の怒りに向き合おう！

福島と茨城に住み働いている私たちは、昨年3月11日の大震災と福島第一原発の事故から何を学んだでしょうか。約2万人もの人々が亡くなり、福島だけでも10万人の人々が今も避難生活を送っています。そして、政府や東電などがいかにごまかそうとも、放射線による影響が人々の命と健康をむしばみ始めています。

私たちは、原発だけでなく政府や会社が決めたことに対して、たとえ疑問や反対があってもそれはやむを得ないこと、家族や生活のためにはしかたのないことであるかのように受け入れさせられてきました。その結果が、いかに悲惨な事態になるのかを目前で見てきました。

会社はわずかなカネの差をつけて労働者同士を競争させ利益をあげています。そして労働者が競争すればするほど待遇も賃金も悪くなります。また民主党政権を構成しているのは会社の代表でありそれと一体の労働組合の幹部です。ですから原発事故だけでなく外注化や非正規雇用化の結果について政府も会社も労働組合幹部も責任を取りません。

そうした無責任な政府・会社・労働組合幹部のあり方に対して、いま原発に立ち上がっている数十万の人々は、大飯原発が稼働しようが原発は絶対許さないと述べています。水戸支社が外注化について各組合に説明したのと同じ時、政府は「40歳定年制」「雇用創出のための全面的非正規雇用化」を柱とする「日本再生戦略会議報告」を行いました。こうした国の方針で進められる外注化は、命と安全と未来の投げ捨てに他なりません。労働組合は、労働者を守り安全を守る社会的存在です。職場労働者に真実を訴え、団結して間違ったことと闘うのが労働組合の使命です。外注化は労働者と安全を関連会社に丸投げし、JR本体は「金儲け」に専念する「フィナンシャル化」しようとするものです。労働組合として断固として反対を呼びかけるべき問題です。

国労本部とJR東労組本部が「検修外注化」について合意し、それが現場で具体的問題になり、出向対象者となる組合員が抗議し始めると、JR東労組勝田車両センター分会は、外注化に反対なのか賛成なのか分からない文章を出しはじめました。もちろん、現場の分会が本部や地本の決定に反対することがあってもよいと考えます。しかし、現場から外注化や出向に対する不安の声や反対の声が出ることは、本社本部間の交渉の時点ですでに分かっていたはずで、以下JR東労組勝田車両センター分会情報17号から19号についての疑問を提起します。

① 17号：「組合員の意見を真摯に受け止めより良い施策とする」とは外注化を推進する立場ということではないのか？

水戸支社は、東労組と国労に対して「経営協議会」で7月10日に「グループ会社と一体になった業務体制のさらなる推進について」（検修部門外注化）の水戸支社案を提示しました。総合協約を結んでいない動労水戸には7月12日に提示され、動労水戸は即日現場に配布すると共に「緊急声明」を出しました。「経協」は、東労組や国労の幹部との間で「正式提案」の前の「合意」を形成する会議であり、その内容は一般組合員に「秘密」とされてきました。しかし、当たり前労働組合活動や現場労働者に不利になる協約を結んでいない動労水戸に、その縛りはありません。

これに慌てて、東労組分会は出向の対象になる「構内・仕業」の組合員に対する職場集会を急遽7月14日から17日に開催しました。そこで出された意見のうち、比較的穏健な意見を選択して例を出し、あたかもそれに真摯に応えるフリをしながら「会社と議論しより良い施策にしていく」「まだ、水戸支社からの正式提案はされていないから、これからスタート」と結んでいます。「より良い施策にしていく」とは「外注化を組合員に納得させる形で進めていく」ということの意味しかありません。はっきりいって「より良い外注化などない」から私たちは反対しているのです。NTTや郵政を見るまでもなく、外注化やそれにとまなう非正規雇用労働の拡大は悲惨であり、破綻的です。また「正式提案ではない」ということは、すでに本社本部間で合意しているという事実のごまかしではないのでしょうか？本社本部間で合意しているということは、東労組はどんなに組合員の反対があってもこれを進めるということを約束しているということではないのでしょうか？「出向に出されたら戻る職場がなくなるのでは？」という組合員の不安は当然です。東労組が合意しているのは、検修部門の全面外注化であり、駅業務の外注化も合意しています。それが進められていったら一体どこに戻すのか、明らかにする義務があるのではないのでしょうか？

② 18号：どうして7月31日までが職場集会なのか？

18号では、「外注化に対するたたかい」で7月23日から27日、7月30日から31日に全組合員を対象とする職場集会を開催するとしています。どうして「外注化反対」の集会でなく「外注化に対するたたかい」なのでしょう？そして、どうして慌てる様に31日までの全組合員集会なのでしょう？全組合員に説明したことをもって、水戸支社の提案を受けることに合意しているのではないのでしょうか？8月末の支社地本間妥結に向けた手続きを踏んでいるだけではないのでしょうか？



③ 19号：東労組分会が「怒」っているのは外注化でも強制出向でもないのではないのか？

私たちも職場の労働者も外注化と先の見えない強制出向に怒っているのですが、東労組勝田車両センター分会が怒っているのは「労働協約を無視した会社の対応」なのですね。とすればあなたたちが抗議しているのは「経営協議会」の資料を、水戸支社が動労水戸にも渡したという点ではないのでしょうか。それを動労水戸が直ちに現場で配布したことに怒り、水戸支社に謝罪せよと言っているとしか思えませんが、その通りですね？それはおかしくないですか？あなたたちが守ろうとしているのは、現場組合員ではなく組合幹部の地位とメンツだけです。違いますか？

以上、あなたたちは職場の組合員に対し説明する義務があると思います。職場のすべての仲間に対して、責任ある回答を求めます。

国鉄水戸動力車労働組合

水戸市三の丸三・一・三
発行責任者 石井真一 編集者 西納岳史
FAX 029-227-6291